

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

事業名 教員研究費（森林文化アカデミー）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林文化アカデミー 総務課 電話番号：0575-35-2525（内205）

E-mail : c21907@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,299千円 (前年度予算額： 5,297千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,297	0	0	0	0	0	0	0	5,297
要求額	5,299	0	0	0	0	0	0	0	5,299
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

森林文化アカデミーは、実践的な専修教育・学習機関であるため、高度な教育研究を積極的に実施するとともに、特に森と木のクリエーター科は地域の森林・林業が抱える諸問題を解決する指導者育成を目的としている。そのため、教員はより最新で実践的知識・技能を絶えず取得する必要があり、また学生の教育フィールドの開拓が必要とされる。それゆえ教員自身も研究を通じての自己研さんが必要である。

(2) 事業内容

森林文化、里山、人工林、山村活性化、木造建築、ものづくり分野において、県内外の最新あるいは先進事例を調査研究することにより、その成果を学生や地域に還元し、学校全体の資質向上を図る。

(3) 県負担・補助率の考え方

森林文化アカデミー運営に関わることのため、県において全額負担することが妥当

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報酬	34	調査研究協力補助等
共済費	1	労災保険料
旅費	1,714	調査旅費
需用費	1,479	消耗品費 1,264 (研究用資材) 、修繕料215 (機械器具修繕)
通信運搬費	417	機械・研究機器等修繕
使用料	276	高速道路利用料等
備品購入費	1,072	調査研究機器等
負担金	306	各種学会・研究会参加負担金
合計	5,299	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

教員資質は常に向上させる必要があるため今後も継続する。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県の林業技術者育成の中核機関として、優秀な林業従事者を林業界へ供給するため、あるいは地域の森林・林業が抱える諸問題を解決するため、より最新で実践的知識・技能を絶えず取得する必要がある教員の資質を向上・維持を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

教育指導レベル等の指標化は困難

（これまでの取組内容と成果）

令和 4 年 度	研究成果は、毎年度のカリキュラム編成に反映され、新たな知見を加えた授業が行われており、学生教育にとどまらず、地域社会や伝統技術の継承等、社会的な成果も上がっている。 例：シデコブシの自生地の萌芽更新の研究を行い、同樹種の保全活動に貢献した。
	研究成果は、毎年度のカリキュラム編成に反映され、新たな知見を加えた授業が行われており、学生教育にとどまらず、地域社会や伝統技術の継承等、社会的な成果も上がっている。 例：イブキノエンドウの遺伝的変異の研究を行い、外来種と思われていた草花が自生種であることを明らかにし、これまでの説を覆す発見となった。
令和 5 年 度	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
	研究成果は、毎年度のカリキュラム編成に反映され、新たな知見を加えた授業が行われており、学生教育にとどまらず、地域社会や伝統技術の継承等、社会的な成果も上がっている。 例：アラゲキクラゲに寄生する線虫を媒介する昆虫を特定し、妨害の発生を防ぐため、生態に関する基礎調査を進めた。
令和 6 年 度	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	森林文化アカデミーは、県の林業技術者育成の中核機関。有能な若手林業従事者等を育成するには、豊富で高度な知識を有する教員が必要。
(評価) 2	・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 森林・林業・山村づくり・木造建築・ものづくり等に関する情報・知識が蓄積され、公共団体からも講師依頼、各種委員会委員の委嘱を受けている。
(評価) 1	・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている ・業界から求められる知識・技術を持った人材を育成するために、業界のニーズを常に把握し、その教育を提供できるよう委員会で協議、研究している。 ・国等他期間との共同研究を行うことで、経費の節減にも努めている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

林業機械の進化、高度化が進む中、教育側も常に進化、高度化する必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

森林技術者の養成機関として、優秀な林業技術者育成、森林文化、里山、人工林、山村活性化、木造建築、ものづくり分野に優れた人材を供給するため、より一層の教育水準の向上を図る。